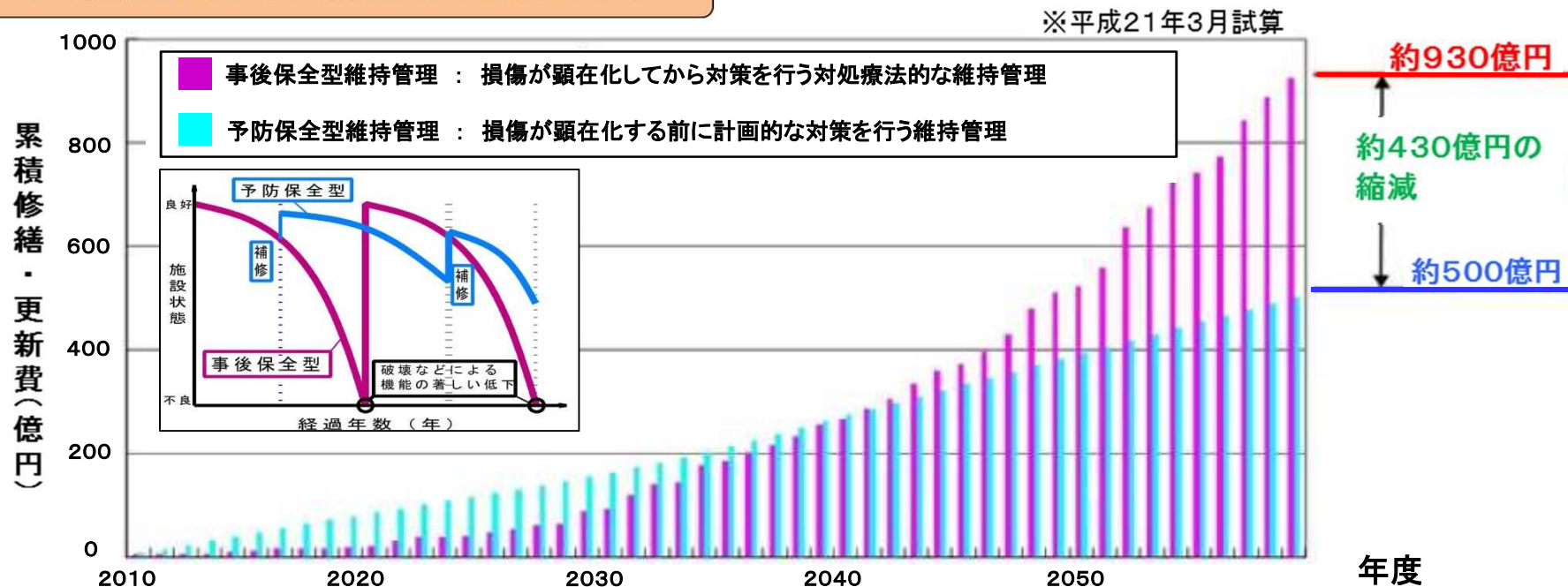


## 【アセットマネジメント導入の効果】

- 事後保全型から予防保全型維持管理への転換による、施設の安全性の確保、予算の平準化や維持管理コストの縮減
- 県管理橋梁(2,392橋)の平成20年度の試算では、損傷が顕在化する前に計画的な対策を行う予防保全型維持管理により、50年間の合計で約430億円の維持管理コストの縮減が見込まれる
- トンネル(249箇所)については、平成24～25年度にかけて実施している詳細点検の結果に基づき、平成26年度に策定する長寿命化計画の中で、中長期的な(概ね50年)維持管理コストの推計を行う
- 舗装、港湾、公園、県営住宅については現在長寿命化計画を策定中であり、その他の施設についても早期に計画策定に着手し、その中で中長期的な維持管理コストを概ね平成28年度までに算出する予定

橋梁維持管理コストの推計例(50年間の累計)

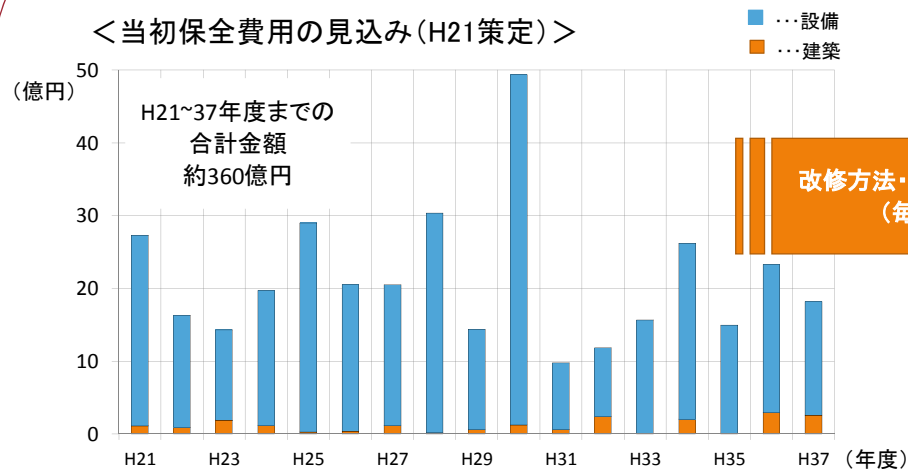


※1 上記推計は簡易点検(遠方目視)に基づくものであり、H21～25の5年間で実施したより詳細な定期点検(近接目視、打音検査)をもとに平成26年度に再度推計を行う

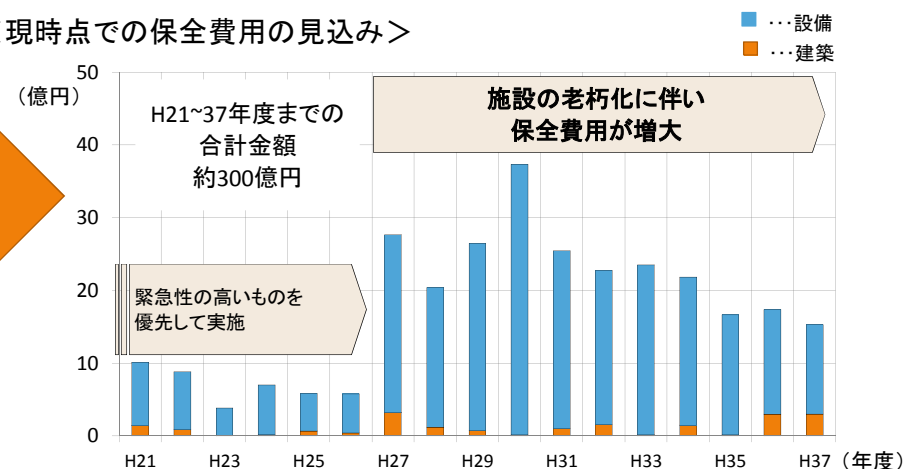
※2 公共事業予算を改築系から維持系へシフト

## ○17大規模施設の保全費用について

<当初保全費用の見込み(H21策定)>



<現時点での保全費用の見込み>



○緊急性の高いもの  
・消防設備等法的に必要なもの  
・受変電設備や熱源設備など  
施設全体に影響を与えるもの

○施設の老朽化  
設備(電気・空調・給排水等)  
建築(外壁・防水等)

## ○新中長期保全計画の策定方針

・現在の保全費用の推計は、施設を現状のまま維持するための必要額であり下記の見直しのポイントを勘案して新計画を策定

※H25.10 各施設管理者等で構成する「大規模施設計画的保全連絡会議」を設置

### 見直しのポイント

- \* 施設の劣化度と利用状況の調査
- \* 各設備ごとの重要度に応じた優先順位の決定
- \* 今後の施設利活用のあり方を検討

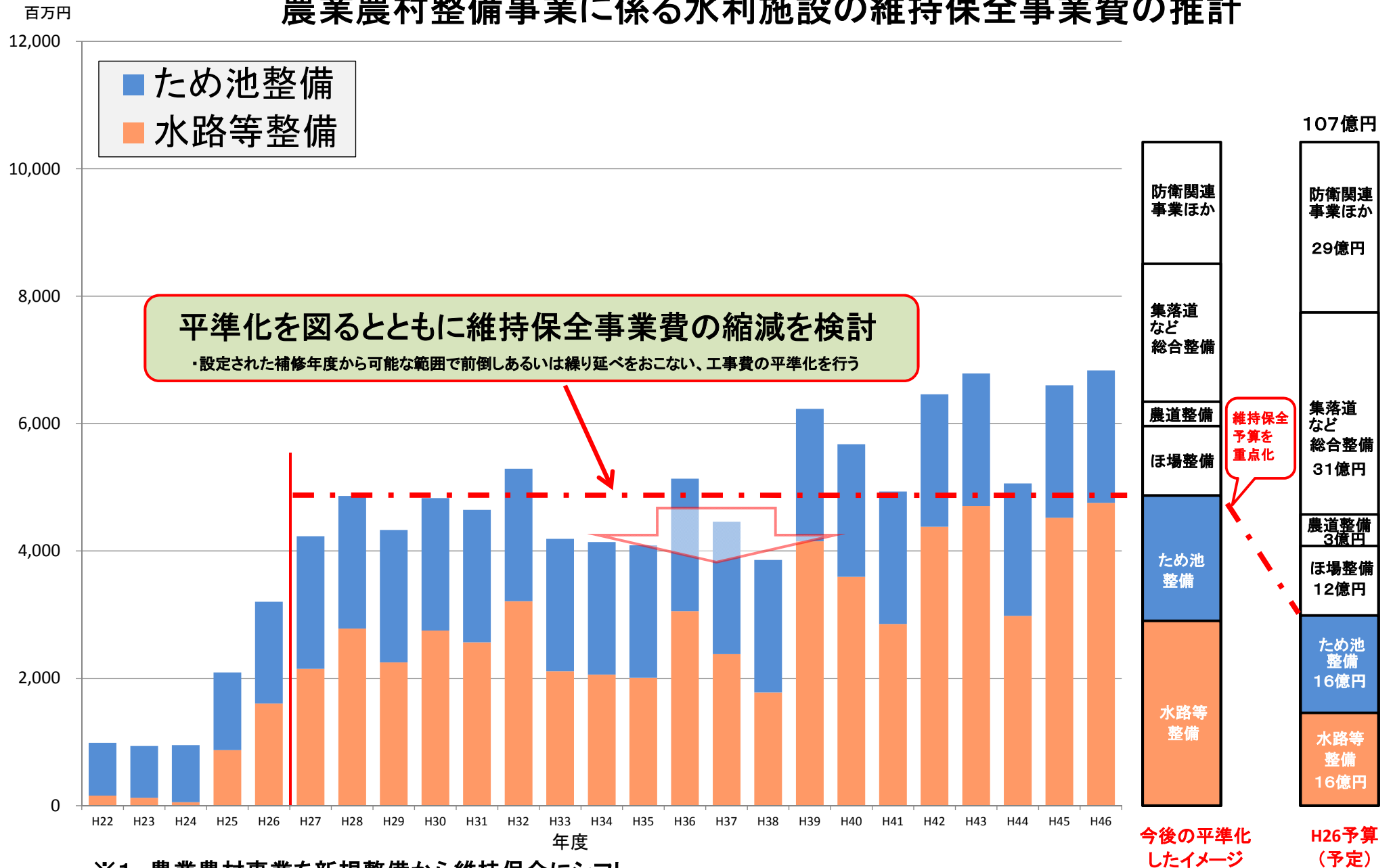
H26年度上半期  
新中長期保全計画の策定

目標

保全費用の  
縮減と平準化

※県有施設整備基金の残高 6,588百万円(9月現計)  
平成25年度3月補正で積増しを検討

# 農業農村整備事業に係る水利施設の維持保全事業費の推計



※1 農業農村事業を新規整備から維持保全にシフト

※2 平成26年度から農家負担を「水路等整備」については15%から5%に軽減、「ため池整備」については1%に軽減

# 大石ため池(大分市東上野)漏水事故について

## ○堤体下流法尻の漏水



- ・10月12日に、大分市東上野のため池堤体より漏水し、貯水の一部が流出
- ・台風27号の影響により水位が上昇し、下流住民16世帯43名に避難勧告
- ・排水ポンプ20台による緊急放流と底樋機能の確保(市営事業で応急対策)

## ○堤体開削の実施 (応急工事)



- ・出水期に備え、排水のための堤体開削を緊急施工(県営事業で応急対策)
- ・今後、受益者と地元との調整の上、本改修に向けて事業化を検討

堤体開削により当面の安全性を確保！